

# 活動成果報告書

平成26年度（第18回）「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ

丹波地域における性教育媒体作成事業

応募グループ名称及び氏名（グループの場合は代表者名）

丹波地域における性教育媒体作成ワーキンググループ

代表者：西田 利枝

勤務先：兵庫県丹波県民局

所 属：丹波健康福祉事務所 地域保健課

所在地：〒669-3309

兵庫県丹波市柏原町柏原 688

TEL：0795-73-3767

FAX：0795-73-0259

E-Mail：Toshie\_Nishida@pref.hyogo.lg.jp



ワーキンググループ会議の状況



中学生用教育媒体の例



高校生用教育媒体の例

## ◇活動方針

丹波地域において、学校、医療機関、地域保健関係者が連携して小・中学校、高等学校の授業等で活用できる性教育媒体及び保護者への啓発資料を作成し、子どもたちの成長過程を通して継続的に、自身自身や他者を思いやることの重要性、望まない妊娠の予防、健康の保持・増進について普及啓発する。

## ◇活動内容とその成果

### 1 活動内容

#### (1) 今までの活動

丹波地域では、「10代の人工死産率」及び「母の年齢10代の出生率」が高値であり、その課題解決に向けて、平成16年度から「思春期保健連絡会」を開催し、思春期の子どもたちに関わる学校、医療機関、地域保健の代表者が一堂に会し検討を行ってきた。

この連絡会の取組みの一環として、17年度からは中高生と同世代の地元看護専門学校の学生等をピア（＝仲間）カウンセラーとして養成し、管内の中学校、高等学校において思春期ピアカウンセリング事業を実施してきた。この事業は、兵庫県における先駆的事业、丹波地域の特徴的取り組みとして9年間継続したが、看護専門学校の県から市への移管に伴い、平成24度をもって一旦休止している。

# 活動成果報告書

思春期ピアカウンセリング事業は、中高生が性の課題を身近に感じることができ、知識の普及に効果が上がったが、一方でピアカウンセラーである看護学生が活動できる時間と、中学校、高等学校の授業時間の調整等に課題があり、地域全体に取組みを拡充するには限界もあった。

## (2) 今回の事業内容

思春期ピアカウンセリング事業の課題を補完しながら、良かった点を引き継ぐ視点で、担任等教諭が授業で使え、子どもたちの感性に働きかけられる媒体を作成する。

### ① ワーキンググループ会議の開催

ワーキンググループを設置し、下表のとおり媒体等の内容検討を行っている。

	開催日	検討内容
第1回	平成26年10月20日	1 ワーキンググループの設置と進め方について 2 小・中学生の教育媒体案について
第2回	平成26年12月18日	1 小・中学生の教育媒体修正案について 2 高校生の教育媒体案について
第3回	平成27年1月22日	1 小・中学生・高校生の教育媒体修正案について 2 保護者への啓発リーフレット案について 3 配布、活用方法について

【助言者】 神戸市看護大学 健康支援看護学領域ウィメンズヘルス看護学専攻  
／助産学専攻科 教授 高田 昌代 氏

【メンバー】 丹波健康福祉事務所保健師、管内市保健師、医療機関助産師  
小・中学校、高等学校の代表養護教諭 (15名)

### ② 性教育媒体及び保護者用啓発リーフレットの作成・配布

## 2 成果

- (1) 小・中学校、高等学校向けの性教育媒体作成により丹波地域の小・中学校、高等学校において一貫した教育が実施でき、地域全体の性に対する意識が向上する。
- (2) 各学校への媒体の配布により限られた時間内に効果のある健康教育ができる。
- (3) 子どもの性行動の背景に自己肯定感の低さが関係していることがあり、保護者向けリーフレットの作成により子どもの自己肯定感を高める関わり方について普及啓発できる。
- (4) 丹波地域の母の年齢10代の出生及び望まない妊娠・出産の減少につながる
- (5) 学校、医療機関、地域保健の連携の強化につながる

### ◇今後の計画

今回作成する性教育媒体及び保護者用啓発リーフレットは、この10年間の取組みの成果物として作成し、再開が検討されている「思春期ピアカウンセリング事業」と両輪になって、丹波地域の子どもたちの心に届く性教育が展開できることを期待している。

今後、作成した性教育媒体及び保護者用啓発リーフレットが有効に活用されるよう、思春期保健連絡会を継続し、周知と活用方法を検討する予定としている。

# 活動成果報告書

〔特にPRしたいこと〕

丹波地域における性教育媒体は、以下4つの視点で作成を進めている。

- (1) キーワード：「自他を大切にする」「自己決定」「人との違いを認める」  
「NOと言える」「自分の人生を考える」
- (2) 子どもたち自身が考えることができる参加型プログラムである。
- (3) ワーク、レクチャー、感性に働きかける内容の組合せとする。
- (4) 授業だけでなくホームルームなど短時間でも活用できるよう、編集可能な媒体とする。

〔参考資料〕

## 1 保健統計

表1 母の年齢10代の人工死産率の推移

		16年	18年	20年	22年	24年
丹波	人工死産数	7人	4人	2人	1人	1人
	人工死産率	259.3	285.7	117.6	71.4	83.3
兵庫県	人工死産数	157人	99人	109人	103人	106人
	人工死産率	166.5	113.3	126.1	133.6	172.6

※資料：人口動態調査

丹波地域の母の年齢10代の人工死産率は、平成20年度以降全県値よりも低率に転じ減少しているが、ゼロには至っていない。

表2 母の年齢10代の出生率の推移（※丹波地域は参考値）

		16年	18年	20年	22年	24年
丹波	出生数	19人	10人	15人	13人	11人
	出生率	7.26	3.82	5.73	4.97	4.20
兵庫県	出生率	5.27	5.35	5.54	4.94	4.08
全国	出生率	5.64	5.2	5.2	4.6	4.4

※資料：人口動態調査（10代女子人口は平成22年国勢調査報告を使用）

全県・全国値は「国立社会保障・人口問題研究所：人口統計資料集」

母の年齢10代の出生率も、減少しているものの、全県値よりも高率に推移している。